

いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。
JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に
少しでも役に立つ情報をお届けさせていただきます。



体が大きく！吸汁量が多い！！ ミナミアオカメムシに注意！

ミナミアオカメムシの発生量が8月中旬から9月にかけて増え、平年よりも多い状況です。ミナミアオカメムシは、昨年に越冬した成虫が4月上旬から活動を始め、麦・アブラナ科植物・タデ科・イネ科の雑草に飛来し産卵します。秋までに3世代～4世代にわたり生息します。第1世代の成虫が6月頃から発生し、イネ科・マメ科などの植物で繁殖し、米や大豆の品質低下に影響しています。



水稻 穂を吸汁して斑点米が増加！

- ・斑点米カメムシ類の中でも、体が大きく吸汁量が多く、カメムシが少なくても被害が大きくなります。他のカメムシと比べても、斑点米発生能力が高いカメムシです。
- ・またミナミアオカメムシは、籾のどの部分でも無差別に吸汁し、斑点米を増やします。
- ・麦あとの飼料米や遅く植えた水稻の圃場には、今現在ミナミアオカメムシの幼虫・成虫などが集中して群がっています。

農薬を選ぶ！！

スタークル・キラップなどのネオニコチノイド系薬剤は効果が高く残効も長くなっています。ミナミアオカメムシに対して、合成ピレスロイド系薬剤（トレボン・MRジョーカーなど）は防除効果が低いと言われています。

大豆 莢内の子実を吸汁し青立ちや被害粒が増加！

若い莢の時期に被害を受けると、莢の発育が止まり生育中に落下するものが増えます。子実肥大期（初期）の被害は、完全な不稔となり板莢や奇形莢になります。子実肥大期（中期から後期）の被害は、奇形粒や変色粒が増えます。幼莢期から子実肥大期に被害が多いため、この時期の防除が重要になります。

大豆の防除適期

1回目 開花20日後 莢伸長期

2回目 開花40日後 子実肥大中期

※ 2回散布できない場合は、開花30日後 子実肥大初期



ミナミアオカメムシ